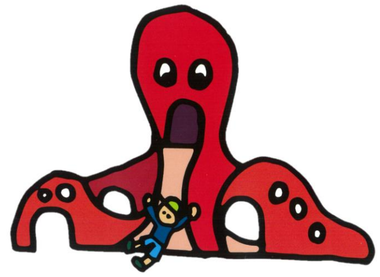
「タコさんすべり台」の選定に関する主な意見



景観の専門家や区民などによって構成される景観審議会の中で、特に 議論の対象となったのが、「タコさんすべり台」。
多くの議論が交わされ、景観審議会委員による表決の結果、賛成8票 ・反対７票となり、今回の「足立まちの風景資産」に選定されました！
この議論の中で「“足立らしい風景”とは何かと考える良いきっかけ になったのではないか」との発言がありましたので一部を紹介します。

- 景観は一つの文化であり、生物の形を模倣したデザインは、足立区の誇れる文化の象徴ではない。
- 「景観十年、風景百年、風土千年」。百年経ってもタコさんすべり台をずっと足立区の誇りとして持っているのか。
- 昭和４０年に既に造られて、まちの成長等を住民とともに見届けてきた風景である。昔からまちに溶け込んで住民の暮らしに密着してきた公園の遊具として今も現役であることを踏まえれば、タコさんすべり台は、足立区民の心の風景資産ということもあるため、選んでも良いのではないか。
- タコ公園を地図にまとめた「タコさんＭＡＰ」や、タコさんすべり台のデザイン案の公募もしているため、足立区のアイデンティティの一部とも言えるのではないか。
- 風土、歴史、文化という点で考えて、これを足立の本当の景観として良いのか。
- 「タコさんすべり台」はここにしかないのか、これは遊具で他の場所でも成り立つ景観になってしまわないかというのが、少し引っかかる。
- 現状では、無理をして入れなくても、今後これが残り続けてみんなに大切にされていく過程を経てまた議論することはあるかと思うが、今の段階で意見が割れているのであれば、あまり無理をしなくても良いかと考えている。
- 足立区内だけで１１のタコ公園があり、葛飾区にも江戸川区にも板橋区にも、おのおの数多くあった。風景資産で大事なことは足立らしいということだと思うのだが、葛飾区の方にしてみれば葛飾区らしい風景の中にタコ公園、また、江戸川区の方は江戸川区らしい風景の中にタコ公園が入ってくるため、独自の地域性のあるものという点で、何か違和感があると感じる。
- 「タコさんすべり台」が入っていることにとても驚いた。確かに足立区発祥ではあるが、これを風景として認定すると、かなり古いものもずっと改修してもう一回造ってということをする必要があると思う。そのような点も選定する際に考える必要がある。
- 足立区で生まれて足立区でできたものであり、今それが１１基ある状況なので、すごく大切にして保存していかなければいけないものなのではないか。
- 美しい、美しくないといった価値判断は、歴史や時間によって変わる。今、「タコさんすべり台」を造るのは、現代の技術や施工性、職人さんなどを考えるとかなり大変なのではないかと思う。そのため、近代のピカピカした建物などよりよほど価値がある大切なものなのではないか。
- 風景資産に登録して、区民に啓発を促して、「これは大事なものだ。足立区がきちんと手入れをして残していかなければいけない貴重なものです」ということをこの場で説明していくのが良いのではないか。
- 今回は「指定」ではなく「選定」であり、気軽に応募できたと認識している。タコさん自体も古くからあるものなので、選定することには賛成したい。
- 子どもが安心して遊べる環境は非常に大事だと思っており、これから人口減少社会になっていくなかで、地域間競争で選ばれる足立区になるために、このような資産をしっかり登録して大事に育てていくことも考え方として１つある。
- 近所に「タコさんすべり台」はないので全く思い入れがないが、一方で、思い入れがある方もいる。近くにあって親しみがあるかないかによって大きく価値判断が分かれるものである。
- 幼少の頃から近いところにあったので、すごく親しい。あって当たり前という環境で幼い頃からずっと育ってきたため、賛成と考える。ただ、他県の人から見ると、この公園は一つの遊具として見ているため、都市形成や文化というよりも、「ここにはこのような公園があって、このような遊具がある」、そのような見方をしていると感じた。
- 風土・歴史・文化という観点から考えると、「タコさんすべり台」で遊んでいる風景、子どもたちが写り込んでいた風景があって、それらを一つとして見たときに、そこで初めて風景資産として成り立つのかと、委員の皆様の話を聞いて感じた。
- 「タコさんすべり台」だけとなってしまうと、「シンボルのある他の公園はどうなのか」などの意見が出てくると思う。足立区は公園がシンボルとなっているので、今後そのような意見も出てくると思う。遊具として残していきたいという考えで風景資産にするのではなく、より身近に感じてもらうか、特に若い世代にどう感じていただけるかということは、景観審議会の中で考えるべき大変重要な観点だと思う。
- 「区民に愛されている歴史のある遊具としてこれからも大切にしていきたいからこそ、景観としての議論の場から外しても良いと思われる」という意見が、一番腑に落ちた。大切にしていきたいからこそ、今回は景観としての議論の場から外すのが良いのではないかという意見である。
- 「タコさんすべり台」という構造物そのものというより、親しみや思い出、自分の原風景を想起させるシンボル性のあるものと捉えることもできると思う。区民の人たちに親しみや、景観を身近なものとして捉えてほしいという思いがあるのであれば、「タコさんすべり台」は、ただの建造物のデザインとしてではなく、子どもの遊んでいる風景『生活景』として評価する。